

令和 6 年 5 月 27 日

【市長からの手紙 vol.47】『WHY から始めよう』

この表題と同名の書籍もかつてヒットしましたが、ぜひ、このことを意識してほしいと思います。

「この事業の目的は何ですか？」「このイベントはなぜ開催されるのですか？」「なぜこの方と面会するのですか？」「この作業をする目的は何ですか？」それらの問いに対して、明確にクリアに答えることができるか。深く考え尽くしているか。それはとても大事なことです。

「WHY(なぜ)」を突き詰めることが、とても大切なこと。

「WHY-WHAT-HOW」。これらを意識して政策を進めることが大切です。

特に「WHY」を私たちはどこまで突き詰めているでしょうか？一致させているでしょうか？手元にある事業に照らしてみてください。ありとあらゆる仕事や業務や事業の「WHY」を突き詰めて考えてみてください。

例えば、あるイベントをする場合。そのイベントの「WHY」は何か？街が稼ぐため？若い人を集めるため？市民の連帯を深めるため？市のブランドを全国に発信するため？

どれも正解になり得ます。だから「そのすべてです」という説明を受けることがあります。バランスを取る行政官らしい説明でもあります。

でも、「WHY」がたくさんあって、いろんなことを同時に狙っていると、結局どれも中途半端な達成しかできず、「WHY」がぼやけてしまい、意識から遠のき、共感を得ることが難しくならないでしょうか。一点だけに絞るのが難しいとしても、「今年はこれだ」「優先順位はこれだ」と決めていく勇気が必要となります。

そして。「HOW に走るな！」ということも大事です。

行政では、正確で間違いのないことが第一のミッションになりがちです(私も行政にいたので、その気持ちはよくわかります)。ロジ、段取りをきちんと設計して、事業やイベントをやること自体が目的化してしまう。危険な罠です。WHYそっちのけでHOWだけ作り込んでしまう。危険な癖です。

「そもそも何のためにやるんだっけ？」「そもそも出したい成果って何だっけ？」そこから離れて、細かいロジや段取りばかりを設計していないか、注意が必要です。それでは関わる方の心にも響きません。

「WHY」をクリアにすることによって、3つのメリットが生まれます。

1 つ目は、「無駄がなくなる」こと。「WHY」を明確にすることで、WHYと関係ない部分をそぎ落とすことができます。「HOW」に走ってしまうと、いくらでもHOWは作り込むことができます。

2つ目は、「求心力が高まる」こと。人は「HOW」に共感するわけではありません。「WHY」に共感するのです。その目的なら「一緒にやろう」「力を貸そう」という人が出てくる。多くの人々の心を一つにすることができます。

3つ目は、「成果を図ることができる」こと。1 つのクリアな「WHY」があるからこそ、それがどの程度達成したのか、次回に向けてどう改善すれば良いのかがより明確に見えてきます。

事業やイベントに際しての「WHY」でよく使われるのが「連携を深めることが目的です」ということ。「連携」という言葉、これはマジックワードです。何かプラットフォームを作る、協働組織を創るときに出やすい大義名分です。それも大切なことであり、否定するものではありませんが、多くの場合、専らそれを「WHY」にしてはなりません。一緒にやること、連携すること、つながることは当然のこと。それ自体を「WHY」にするというのはあまりにも弱々しすぎるし、曖昧でもあります。-

「WHY」のもたらす力、人の心を動かす力の一例。よく挙げられるものにアップル社の例があります。

次の2つのうち、どちらを皆さんは買いたいと思いますか？

(A)われわれは、すばらしいコンピュータをつくっています。

美しいデザイン、シンプルな操作法、取り扱いも簡単。

1台、いかがですか？

(B)現状に挑戦し、他者とは違う考え方をする。それが私たちの信条です。

製品を美しくデザインし、操作法をシンプルにし、取り扱いを簡単にすることで、私たちは現状に挑戦しています。その結果、すばらしいコンピュータが誕生しました。

1台、いかがですか？

いかがでしょうか？

アップル社は(B)の道をいきました。

人々はあなたの WHAT ではなく、それをしている WHY を買うのです。だからアップルからコンピュータを購入した人は、いい気分になる。アップルを特徴づけているのは、アップルの WHAT ではない。それをしている WHY なのです。アップルの製品とは、彼らの信念に命を吹き込んだものである、と解説されています(『WHY から始めよ』)。

1 つのクリアな「WHY」を定めることで、掘り出すことで、関係する人や市民の心を動かすことができます。より多くの人を巻き込むことができます。そして何より、私たち自身が確信とやりがいを持つことができるのではないのでしょうか。チームが団結することができるのではないのでしょうか。内なるエネルギーをかきたてることができるのが「WHY」の強さなのです。

そのために、ぜひ「WHY」を常に頭に置いて、「WHY?」「WHY?」「WHY?」と問いかけてみてください。

今の市政における「WHY」とは、「新ビジョンを実現したいということ」です。そこにどうしたら紐づけられるのか、どうしたら寄与できるのか、それぞれの政策や事業へブレークダウンしてみてください。

それが、皆さんの心の中にあるはずの「自分はなぜ公務員となったのか」という「WHY」を呼び醒まし、そこに立ち戻って日々の皆さんの仕事に繋がることを願っています。

もう一度繰り返します。「WHY」だけが力になります。「WHY」だけが心を動かすことができるのです。

身の回りのありとあらゆる仕事に問いかけてみてください。

そして、ぜひ私に対しても、あなたの考える「WHY」を聴かせてください。

北九州市なら、必ず、できる。

皆さんの奮闘に感謝します。

北九州市長 武内和久

【今週のことば】

患難は忍耐を生み、忍耐は練達を生み、練達は希望を生む。そして希望は失望に終わることはない。

（新約聖書）

最近、研修などの場でお話しさせていただくことがあります。その際に割とよく出る質問に、「辛い時にどうやって市長は乗り越えるのですか？」という問い。「恥をかくこと」「修羅場を経験すること」は、結局、自分の成長につながるという考え方を私はかなりの程度、腹の底から持っているタイプですが、このことは、1900年前の新約聖書でもおおよそ同じことが指摘されています。一見、苦労や理不尽に思えることが、いずれ希望へと転化していく。何か意味があって、任務を与えられたと解釈して、いつの間にか絶望が希望に変わっていくことを体感することも、人生から教えられることのひとつだと思います。

【タケウチ・ホンの気持ち(3)】

『後世への最大遺物』(内村鑑三)

人生の意味、働いている意味をふと考えた30代後半に読んで、迷いがなくなったきっかけとなった本。「人生の最大遺物」とは、何か。ネタバレになるのでここでは詳細は書きませんが、「金でも、地位でも、思想でも、事業でもない」と内村は言います。世の中への愛情や他者への想いを尊びながら、人生の意味を問いかけてくる書です。Kindle でも無料で読める短い本ですのでどうぞ。